

平成 23 年 12 月 7 日

各 位

岩手大学農学部獣医学課程
食品安全学准教授選考委員会
委員長 重茂克彦

食品安全学准教授候補者の公募について

謹啓

寒冷の候、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
この度、岩手大学農学部では食品安全学准教授候補者を下記により公募することとなりました。つきましては、貴機関に適切な候補者がおられましたら、応募くださるよう周知方ご高配を賜りたくお願い申し上げます。なお、貴機関以外の方でも適任と思われる方がおられましたら、ご推挙いただければ幸甚に存じます。

謹白

記

1. 公募する教員の職名および人数
獣医学課程 応用獣医学分野 食品安全学 准教授 1 名
2. 分野の概要および職務の内容
応用獣医学分野は獣医微生物学、獣医病理学、獣医寄生虫病学、獣医公衆衛生学、実験動物学および食品安全学の 6 研究室からなり、今回の公募は食品安全学を担当する准教授を充足するためのものです。
主たる担当科目は、衛生微生物学、衛生微生物学実習、人獣共通感染症学、免疫学、疫学などです。なお、平成 24 年 4 月より岩手大学農学部・東京農工大学農学部共同獣医学科が設置されるため、同学科の教育も担当することとなります。
3. 選考方針
今回の公募にあたっては、次の諸項を満たす人物が望まれます。
 - 1) 食品安全学および獣医公衆衛生学に関する学識を有し、学部および大学院における教育と研究指導に積極的に取り組む意欲のある者。
 - 2) 博士の学位を有し、微生物学および分子生物学の知識と技術を基盤として食品安全学分野の研究を推進する意欲のある者。なお、業績および資格に係わる評価が同等である場合には、男女共同参画社会基本法の趣旨に則り、女性を優先的に採用します。
 - 3) 獣医師免許を有する方が望ましい。
4. 任用予定日
平成 24 年 4 月 1 日以降のできるだけ早い時期
5. 提出書類
 - 1) 履歴書 1 部(写真貼付、署名、捺印のあるもの。e-mail アドレスも記載してください)
 - 2) 研究業績目録 1 部(別紙または岩手大学ホームページを参照ください)
 - 3) 主要論文別刷 10 編以内
 - 4) 教育研究に対する抱負 1 部(1,200 字程度)
 - 5) 推薦される場合は推薦状(様式自由)
6. 面接
選考過程において応募者の来訪を求め、面接などを実施することがあります。その際

の旅費等の経費は、自己負担になります。

7. 提出期限
平成 24 年 1 月 10 日(火)必着

8. 提出先(問い合わせ先)

〒020-8550

盛岡市上田三丁目 18-8

岩手大学農学部獣医学課程食品安全学准教授選考委員会

委員長 重茂克彦(おもえ かつひこ)

phone: 019-621-6221

fax: 019-621-6223

e-mail: omo@iwate-u.ac.jp

教員応募書類要項と朱書きし、簡易書留で郵送してください。なお、応募書類は原則として返却しません。

以上

「研究業績」の作成について（2007. 4）

農学部教員人事委員会

研究業績は、A4判の用紙に A.著書・訳書、B.学位論文、C.総説・論説、D.原著論文 (a)学術雑誌^{*1}、(b)紀要^{*2}、(c)プロシーディングス、E. その他^{*3}、F. 報告書・事業報告書等^{*4}、G. 特許・設計等、H.国際学会発表^{*5}、I. 国内学会発表^{*5}の順に、下記の例を参考にして作成してください。例えば総説・論説がない場合は、C. 原著論文のように繰り上げてください。マージンは左右上下約3cmに設定し、1行35～40字で40行程度（日本文の場合フォントのサイズは10.5～12程度）にしてください。

- *1：学会誌、国際誌等を年代順に記載する。
- *2：試験場報告、研究所報告等を含む。
- *3：商業雑誌、資料等を記載する。
- *4：調査報告書、科学研究費報告書、事業報告書等を記載する。
- *5：最近5ヵ年について記載する。（教授選考の場合、I. 国内学会発表は不要）
- *6：著者名にアンダーラインを付け、コレスポンディングオーサーあるいは筆頭著者とイコールコントリビューションの場合は二重のアンダーラインを付ける。ただし論文にその記載がある場合に限る。
- *7：英文で著者名を記載する場合は、下記のようにする。
1. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
- *8：学名にはアンダーラインをつけるか、またはイタリックで記載する。
- *9：論文番号は全角、英数字は半角にする。また、巻数はボールド（太字）とする。
- *10：Journal は略記する。
- *11：発行又は発表予定として記載可能なのは in press か accepted のみとする。

〈記載例〉

研 究 業 績 （著書・学術論文等）

A. 著書・訳書

1. 岩手一郎（単著）（1990）
農学について. ○○出版社, 東京, 100p.
2. 岩手一郎（分担執筆）（1991）
北上山地における畜産業, 「岩手の農業」(大学太郎, 学部一郎編), △△堂, 盛岡, pp.10-20.
3. 岩手一郎（分担翻訳）（1992）
トウモロコシ, 「アメリカの農業」(A.B.Carter 著, 大学太郎監訳), ◇◇社, 東京,

pp.20-30.

4. Iwate, I. and Morioka, J. (分担執筆) (1993)
Agriculture in Japan, "Agricultural Sciences"(Eds.: D. E. F. Green and H.I.James), Bio Press,London, pp.20-30.

B. 学位論文

1. 岩手一郎 (1980)
X Y Zに関する研究. [◇◇学修士または修士 (◇◇学) ○○大学]
2. 岩手一郎 (1983)
A B Cに関する研究. [◇◇学博士または博士 (◇◇学) ○○大学]

C. 総説・論説

1. 岩手一郎 (1994)
岩手における野生動物の分布. 岩手の自然 No.3 : 1-5.
2. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1995)
岩手山の植物分布. 岩手植物誌 **15** : 215-220.

D. 原著論文

(a) 学術雑誌

1. 岩手一郎 (1985)
岩手の野生動物に関する研究. 日動学誌 **5** : 15-20.
2. Morioka, J., Iwate, I. and Akita, N. (1986)
Distribution of wild animals in Iwate Prefecture. Jpn. J.Anim.
Sci. **20** : 100-105.
3. Iwate, I. (1990)
Calcium metabolism in laying Japanese quail (*Coturnix coturnix japonica*). Jpn. Avian Physiol. **25** : 15-20.

(b) 紀要

1. 岩手一郎 (1985)
トウホクヤマネズミの生態について. 岩手大農報 **17** : 30-40.

(c) プロシーディングス

1. Iwate, I., Morioka, J. and Akita, N. (1995)
Mode of life of Japanese macaques in northern Japan. Proc.
5th Int. Cong. of Wild Animals, Berlin, pp.101-102.

E. その他

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1990)

北上山系におけるニホンカモシカの生態調査. 野生動物 No.125 : pp.35-45.

F. 報告書・事業報告書等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシのPCB汚染. 自然動物調査報告(△△県), pp.10-11.

G. 特許・設計等

1. 盛岡次郎, 岩手一郎 (1993)

イヌワシ捕獲装置 特許第 1234567 号

H. 国際学会発表 (最近5か年)

1. Morioka, J. and Iwate, I. (1996)

Ecological study of wild animals in Japan. 5th Int. Anim. Ecol., New York.

I. 国内学会発表 (最近5か年)

1. 岩手一郎, 盛岡次郎 (1997)

岩手の野生動物. 第100回日本野生動物学会講演要旨 : 25-26.